

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	閉塞性腎盂腎炎患者に早期ドレナージを行なうことは転帰の改善に寄与するか？
研究責任者	聖隷浜松病院救急科 小林 駿介
研究実施体制	聖隷浜松病院を受診された患者様のデータを使用します。
研究期間	2020 年 10 月 1 日 ～ 2021 年 3 月 31 日
対象者	2010 年 1 月 1 日から 2020 年 7 月 31 日の間に聖隷浜松病院において、閉塞性腎盂腎炎で入院し尿管ステント留置術を施行された患者様。
研究の意義・目的	敗血症の診療において可及的速やかな感染源の除去（ドレナージ）が推奨されています。しかしながら、尿管結石など尿路の閉塞起点が存在する腎盂腎炎（閉塞性腎盂腎炎）による敗血症に対する早期のドレナージの効果を直接検証した先行研究は存在せず、ドレナージを行うべや最適なタイミングに関してはいまだ不明です。本研究では閉塞性腎盂腎炎患者に早期ドレナージを行なうことの効果を検証することを目的とします。
研究の方法	対象患者様について、診療録から以下の項目の調査を行います。 来院からドレナージ完了までの時間、バイタルサインの推移、入院前 ADL（CFS）、基礎疾患、乳酸値、補液量、水分バランス、昇圧薬の投与量、重症管理部門在室期間、入院期間、転帰 など。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 救急科 （氏名）小林 駿介 TEL:053-474-2222(代表) 救急科外来 9:00～17:00 平日